

祝辞

世界に通用する人材育成の必要性を痛感する



日本包装専士会
前会長 伊藤 浩明

この度は創立50周年をお迎えに成られ、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

私共、日本包装専士会は1987年に創設され、今年で29年目を迎える会で、貴会の50年には程遠く及びませんが、日頃、貴会のご活躍を目のあたりにし、見習うところ大と感じております。

さて、「詰め込み教育」から「ゆとり教育」、そして「脱ゆとり教育」と子供の教育の流れが変化してきているこの頃です。また、少子化の影響で学校入学に際し、競争の必要性が薄れ、目的を持って学習に励む動機づけが低下している子供が増えている現在、その結果世界との教育水準の差が徐々にひらいていきます。

2016年度世界大学総合ランキングを見ると、1位マサチューセッツ工科大学、12位シンガポール国立大学、13位南洋理工大学（シンガポール）、24位清華大学（中国）、27位香港大学、34位東京大学となっています。東京大学の位置と毎年下降傾向にある状況を皆さんはどのようにお考えでしょうか。今後日本の発展の大きな原動力は教育水準を上げ、それを日本の為に活用できる環境を作る事が最も重要であると思います。その為に貴会の力が必要に成ります。今後も日本の包装界を科学技術的に牽引して行って頂きたいと思います。この50年を新たなスタートして、さらなるご発展をお祈り申し上げます。